

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	24,637	(千円)
公 演 事 業	24,637	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	静岡県文化プログラム 「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」	6月6日	演目：三番叟「田京の式三番」、鹿島踊「湯川鹿島踊」、和太鼓「燎」「族」「彩」 出演：伊豆の国市田京区、伊東市湯川自治会、静岡県立駿河総合高校和太鼓部&鼓童、岩下尚史 他	目標値	400
		長泉町文化センター 大ホール		実績値	192※
2	グランシップ音楽の広場 2021	8月1日※	公演前日のゲネプロ終了後、参加者の一人が発熱したため、公演当日にやむなく中止した。	目標値	4,600
		大ホール・海		実績値	—※
3	グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル 2021	8月15日※	新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点措置が静岡県に適用されたため、公演中止。	目標値	1,000
		大ホール海		実績値	—※
4	にっぽんこども劇場	11月27日/1月16日	11/27【講談】演目：「白雪姫」 出演：宝井琴星、宝井琴鶴 1/16【能楽】演目：「殺生石」 出演：山階彌右衛門 他 1/16【寄席】演目：「つる」「みそ豆」 出演：林家正蔵、三増紋之助、林家はな平	目標値	340
		交流ホール /大ホール・海		実績値	422※
5	ねむの木学園のこどもたちコンサート～まり子おかあさんの心とともに～	11月28日	演目：「おかあさんの赤いかさ」他 出演：ねむの木学園のこどもたち	目標値	400
		中ホール・大地		実績値	334※
6	グランシップ世界のこども劇場 2022<WINTER>	1月16～17日※	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外カンパニーが来日できず、中止。	目標値	700
		大ホール・海※		実績値	—※
7	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能	1月22日	演目：能「雷電」「来殿」 他 出演：宝生和英、前田尚廣 他	目標値	400
		中ホール・大地		実績値	304
8	京都市交響楽団 名曲コンサート	1月29日	演目：ピアノ協奏曲第1番変ロ短調 出演：ジョン・アクセルロッド、京都市交響楽団、横山幸雄	目標値	600
		菊川文化会館アエル 中ホール		実績値	433※

9	NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅢ ～ロマン派から印象派へ～＋野平一郎静岡トリロジーⅢ	3月6日	演目：静岡トリロジーⅢ「瞬間と永遠の歌」 出演：野平一郎、NHK 交響楽団、静岡児童合唱団・青葉会スペリオル	目標値	460
		中ホール・大地		実績値	363

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価					
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>					
<p>【ミッション】「ふじのくに文化振興基本計画（静岡県策定）」に則り、静岡県を代表する県立文化施設である「グランシップ」を拠点として、人・もの・文化・情報が交わり人々が集い憩う県民の“心のオアシス”となる。</p> <p>【事業の組み立て】子どもを中心に、地域、世代、障がいの有無に関わりなく、幅広く文化芸術に触れる場づくりを進めるため、戦略目標と基本方針に沿った公演事業を組み立てた。</p>					
【戦略目標】	【基本方針】				
<table border="1"> <tr><td>子ども・子育て世代への支援</td></tr> <tr><td>音楽文化等の普及・振興</td></tr> <tr><td>伝統芸能の継承</td></tr> <tr><td>文芸・美術等の振興</td></tr> </table>	子ども・子育て世代への支援	音楽文化等の普及・振興	伝統芸能の継承	文芸・美術等の振興	×
子ども・子育て世代への支援					
音楽文化等の普及・振興					
伝統芸能の継承					
文芸・美術等の振興					
	<table border="1"> <tr><td>上質で多彩な鑑賞事業</td></tr> <tr><td>誰もが参加できる県民参加型事業</td></tr> <tr><td>関心・理解・親しみを深める教育普及事業</td></tr> <tr><td>ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業</td></tr> </table>	上質で多彩な鑑賞事業	誰もが参加できる県民参加型事業	関心・理解・親しみを深める教育普及事業	ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業
上質で多彩な鑑賞事業					
誰もが参加できる県民参加型事業					
関心・理解・親しみを深める教育普及事業					
ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業					
<p>【令和3年度特殊要因とその対応】令和2年から開始した工事休館で、令和3年4～9月末も施設が一部休館。文化芸術に触れる機会の少ない地域や学校におけるアウトリーチを継続的に実施。</p> <p>【事業実施におけるその他の影響】新型コロナウイルスの感染拡大</p> <p>【事業の進行】新型コロナウイルスの状況が変動する中、事業の都度必要な事項を検討し柔軟に対応して進めた。</p> <p>・「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」では、コロナの影響で出演できなくなった団体を映像で紹介したり、高校の和太鼓部に「鼓童」が佐渡からリモートで指導する機会も活用し、本番までに完成度が大幅に上がった。「ねむの木学園のこどもたちコンサート」は、前年度実施予定がコロナの影響で延期され、更に学園長の宮城まり子氏が逝去されたが、学園職員と協力して制作を進め、生徒たちのモチベーションを高めて公演を実施することができ、障がいの有無に関わらず誰もが共に文化芸術に触れられる場となった。「グランシップ世界のこども劇場」、「京都市交響楽団名曲コンサート」では、海外からの出演者が渡航規制を受け、前者は中止となったが、後者は楽団と情報交換しながら、外国人指揮者の滞在時期を大幅に見直して当初の計画通りに実施することができた。</p>					
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>					
<p>コロナ禍においても立ち止まることなく、子どもから大人まで県民が多彩な文化芸術に触れる機会を創出し、いずれも文化的、社会的、経済的意義のある事業として取り組んだ。</p> <p>・「NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクト」では、静岡県文化プログラムとしてコロナによる延期も含めて5年以上に渡る取り組みとなった。当財団が野平一郎氏に委嘱した「静岡トリロジー」三部作はいずれも本シリーズで世界初披露。今回の完結編では、静岡県出身の詩人・大岡信の詩を引用した歌詞を静岡児童合唱団が歌唱。国内外の第一線で活躍する野平氏・N響と静岡の子どもたちが共演する貴重な機会となり、本プロジェクトは静岡から世界へ発信する文化的財産となった。（文化的意義）</p> <p>・「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」では、地域の祭事等が相次いで中止になる中、地域芸能の継承、子どもたちが地域に誇りを持って努力する姿を紹介することで、地域住民だけでなく鑑賞者も改めてその重要さと課題を見つめ直す機会となった。また「につぼんこども劇場」等では、子どもたちの社会生活が制限される中、安全な観覧環境を整えて拡充したプログラムを実施し家族で気軽に伝統芸能を楽しめる場を創出した。（社会的意義）</p> <p>・いずれの事業もコロナ禍において必要な対策を講じた上で事業を実施することで、文化芸術に携わる人の雇用機会を生み出すことができた。（経済的意義）</p>					

2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

	目 標	指 標
ア	県民のニーズに合わせた舞台芸術を提供する	公演満足度 90%以上、参加意欲度 90%以上
イ	公演事業が企画事業全体を支える収入源とする	支出に対して収入の占める割合※努力収入率 45.3%以上

※補助金等を除いた自主財源の支出に占める割合を努力収入率とし、公演事業の合計値で判断

【実績】

(%)

事業の状況	ア 公演満足度	ア 参加意欲度	イ 努力収入率
計画：9事業 中止：3事業 実施：4事業・内容を変更して実施：2事業 計6事業の平均 ※ア 参加意欲度のみ、5事業平均	96.3	91.6	29.6

・目標に対する指標のうち、アは達成できたが、イは新型コロナウイルス感染対策のため、座席数を50%に制約したことや、緊急事態宣言等の発令により集客が困難になり達成できなかった。

・実施した公演に関しては、来場者の満足度・参加意欲度（今後も同様の公演に来場したいか）が高い数値となっているため、県民のニーズに合った上質な文化芸術公演を提供できていると考えている。グランシップ以外で実施する公演も含め、県民が身近な施設で多彩な文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、公演事業が企画事業全体を支える収入源となるよう、今後も収入確保に努める。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が時期によって大きく変動する中、中止・内容変更等、社会的状況を鑑みながら柔軟に対応して、中止事業以外は速やかに実施した。
- ・「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」では、出演団体の一部が参加できなくなったことで映像での紹介や、団体の代表のみの出演に変更し、現状に則して事業を実施した。
- ・「グラシップ音楽の広場」「ビッグバンドジャズフェスティバル」では、コロナ拡大中での県民参加事業のため中止。「世界のこども劇場」は海外カンパニーが渡航できず、中止。
- ・「にっぽんこども劇場」は「世界のこども劇場」中止を受けて、子どもたちの文化芸術の鑑賞機会を補うため、限られた期間でプログラムの拡充を検討し、当初の「浪曲」・「能楽」に加えて「落語」を追加して実施した。
- ・「京都市交響楽団 名曲コンサート」では楽団との情報共有を図り、外国人指揮者の日本滞在期間を見直すことで、予定通り実施した。
- ・その他事業においては、対策を講じた上で予定通り実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業の状況	当初計画を1とした場合の収支の実績比率(%)	
	収入	支出
【公演事業】計画：9	56.0	77.5
実施：4 中止：3 変更：2		

・中止になった事業では、収入・支出の発生がなくなった事業がある一方、中止決定までの成果物への支払いが発生した事業、当日中止により全額の支払いが発生した事業があり、支出の減額よりもチケットの払い戻し等により収入が大幅に減額となった。

・変更となった事業のうち、「伝統芸能フェスティバル」では、出演団体の参加数が少なくなったことによる交通費等の支出が減額となった。「にっぽんこども劇場」では、「世界のこども劇場」中止を受けて、安心できる観覧環境を整えプログラムを拡充したことで実施演目が追加となり、収入・支出とも増額となった。

・その他、実施事業についても新型コロナの感染状況が集客に影響し、収入が減額となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

・当財団は静岡市にある静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」を拠点に、県内各地の文化施設や学校等と連携し、県民が上質で多彩な文化芸術に触れる機会となる事業を展開している。

●「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」 静岡県文化プログラムとして、世界から日本～静岡へ芸能が伝承されてきた過去から、未来に向けた次世代への継承を大きなテーマとして 2019 年から 3 回シリーズとして実施。集大成の 3 回目は世界文化遺産である富士山に近い長泉町において、静岡県の伊豆地区から浜松まで各地域に伝わる民俗芸能について、子どもたちが積極的に取り組む様子や、コロナ禍における祭事の中止に伴う芸能の伝承機会の消失の課題などを観客も交えて共有する機会とした。また静岡市の高校の和太鼓部の生徒が「鼓童」メンバーの指導のもと練習を重ね、オリジナル曲を披露し大いに客席を盛り上げた。集客についても募集開始から早々に定員に達し、芸能の発信とともに伝承についても注目される機会となった。

●「にっぽんこども劇場」 小さな子どもたちに日本の伝統芸能にはじめて触れてもらう機会として、鑑賞だけでなく体験も含めたオリジナル事業として実施。「講談」では「白雪姫」を講談調で実演し、張扇を持ってテキストを読む体験を行った。「能楽」では「殺生石」のあらすじをイラストで紹介した後に鑑賞。シテ方や囃子方の生の音の迫力を間近で体験でき、保護者にとってもはじめて能楽に触れる機会となった。なお、「世界のこども劇場」中止を受けて、「にっぽんこども劇場」は「寄席」を新たに追加して実施。全ての公演で栈敷席とし、子どもたちが安全な環境で家族で楽しみながら伝統芸能に触れる機会を創出した。

●「ねむの木学園のこどもたちコンサート」 静岡県掛川市にある障害者支援施設「ねむの木学園」と協力して実施。令和 2 年に予定していたが新型コロナの影響で延期となった。その間、当時の学園長で創設者の宮城まり子氏の逝去に見舞われたが、学園が宮城氏の遺志を引き継ぎ、企画当初の意欲を取り戻して実施することができた。グランシップの基本方針の一つである障がいの有無に関わらず「誰もが参加できる県民参加事業」として実施。座席は 50%での販売としたが、発売開始から 1 か月で完売。県外からも多くの来場者があった。

●「グランシップ静岡能」 「グランシップ伝統芸能シリーズ」として宝生流の特別公演とした今回は全てを「雷」に関連した演目で実施。上演前には、長い歴史のある能楽が時代の流れや様々な環境要因に影響されながらも、柔軟に対応することで脈々と伝承されてきた経緯を法政大学能楽研究所の宮本圭造教授が解説したことで、芸能と自然との関係性を紹介した。また宝生流で廃曲とされ 2011 年に現宗家が復活させた「雷電」と現行曲「来殿」を同時に上演し、能楽の多彩な楽しみ方を県民に提供した。

●「京都市交響楽団 名曲コンサート」 県内の中学生に本格的なオーケストラを鑑賞してもらう機会とともに名曲コンサートを合わせて実施。3 年サイクルで県内の東部・中部・西部を巡回している。今回は菊川文化会館アエル（西部）での実施で、静岡市と浜松市の間に位置する地域でのオーケストラ公演として貴重な機会となった。外国人指揮者の来日が心配されたが、11 月の来日から帰国せずに 1 月まで日本に滞在したことで、曲目や出演者の変更なく実施した。

●「NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズⅢ」 静岡県文化プログラムとしてコロナによる延期も含めて 5 年以上に渡る取り組み。当財団が野平一郎氏に委嘱した「静岡トリロジー」三部作の完結編では、静岡県出身の詩人・大岡信の詩を活用した歌詞を静岡児童合唱団が歌唱。国内外の第一線で活躍する野平氏・N響と静岡の子どもたちが共演する機会の創出と、静岡から世界に発信する文化的財産を構築した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

県域を活動範囲とする財団として、県内各地での公演事業を通じて、地域の文化芸術の発展につなげている。

●「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」

子どもたちの参加を通じて、地域の芸能の継承に取り組む団体を紹介。コロナ禍で祭事等が中止される中、様々な工夫で途絶えさせない取り組みを地域住民だけでなく、他の地域の団体や観客が共有することで双方に刺激しあい、芸能を通じた地域住民のアイデンティティを改めて認識する機会としている。

●「グランシップ音楽の広場」

令和3年は公演当日に中止となったが、本事業を通じて県内で活動するアマチュア演奏家（オーケストラ・合唱）が一堂に会し、プロの奏者との共演や本番日までの練習を通して音楽活動の意欲を高めている。毎年本事業に参加することをモチベーションとして、それぞれが日頃の練習に取り組み、静岡県音楽文化を支える人口維持に貢献している。

●「グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」 令和3年は中止となったが、県内で活動するアマチュアバンドが一堂に会し、グランシップの大ホールステージでそれぞれのパフォーマンスを披露する場となっている。プロの照明や音響の舞台技術、プロのヴォーカリストも加わり、演奏者の参加意欲も高め、最後の1曲はそれぞれのバンドからメンバーが自由に参加し共演する機会も創出。また、事前のバンドミーティング等を通じ、バンド同士と財団が協力して公演を実施する関係性を構築している。

●「にっぽんこども劇場」 子どもたちが日本の伝統芸能にはじめて触れる機会として貴重な機会となっている。令和3年は「講談」「能楽」「寄席」を実施し、子どもだけでなく大人もはじめて触れたという声が多く聞かれた。グランシップオリジナルプログラムとして、県内他施設での出前公演などでも積極的に活用し、市町の文化施設で地域住民が文化芸術に触れる機会を創出している。

●「ねむの木学園こどもたちコンサート」 障がいの有無に関わらず誰もが文化芸術に触れる機会として実施するとともに、県内にある障害者支援施設である「ねむの木学園」の取り組みについても紹介し、文化芸術を通じて多様性のある社会について改めて提示する事業となった。

●「グランシップ静岡能」 能楽とゆかりの深い静岡県において、本格的な能楽公演を継続的に実施することで日本の伝統芸能に触れる機会の提供や、能楽の魅力を多角的に紹介する機会としている。子どもや大学生に対して継続的に実施している伝統芸能普及プログラムや学校等での取り組みの受け皿として、身近な施設で能楽に触れられる環境づくりに寄与している。

●「京都市交響楽団 名曲コンサート」 国内の上質なオーケストラの演奏を鑑賞できる機会として3年サイクルで県内を巡回。東西160kmと広く、東京・名古屋の中間にある静岡県では、地域によってオーケストラの演奏に触れられる機会が圧倒的に少なく、県の文化財団としてそれらをカバーする事業として取り組んでいる。

●「NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズⅢ」 静岡との関わりが長く、国内外の第一線で活躍している作曲家・野平一郎氏に当財団が「静岡」をテーマに曲を委嘱し、シリーズⅠ～Ⅲまで継続的に初演することで注目を集めた。公演に付随した事前レクチャーも実施し、曲の構想やイメージするものを作曲家自らが解説することで、公演をより楽しめる取り組みとした。また、県内では鑑賞機会の少ないNHK交響楽団の高い演奏技術も県民の満足度を高めることとなった。

以上のように、多彩な公演事業を実施することにより、子どもを中心に豊かな感性や多様な価値観を創出する環境づくりに寄与している。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業の計画】

・財団の中期構想や基本方針に則った事業であるかという内容の確認に加えて、収入率や経費の妥当性を精査し、実施事業を決定している。

・企画制作部門においては、事業運営に必要な高度な専門知識と創造性を担保すると同時に、企画事業の芸術性と、効率性及び採算性が両立する運営体制とするため、伝統芸能・子ども対象公演系チーフディレクター1名と音楽部門のディレクターを1名配置している。なお、チーフディレクターについては、伝統芸能・子ども対象公演系のみならず、教育普及・人材育成も含めた事業全体について管理している。

【人事戦略】

・財団全体の人事戦略として、職員のモチベーションの向上や意欲的に業務に取り組む環境づくりを進めるため、平成27年度より勤務成績優秀者に対して自ら計画、希望する外部研修への参加費用を一定額負担する特別研修制度を開始。

・指定管理者制度により、採用時の雇用形態を有期契約職員としているが、平成28年度からは契約職員の内部登用制度を開始した。

・女性職員が大半を占めているため、育児休業制度の利用しやすい環境づくりに努めている。令和3年度の利用状況は次の通りである。

育児休業3人、短時間勤務3人、遅出早出勤務1人

・育児や介護で一旦退職した職員が再び経験を活かし、更に能力を発揮するための復帰制度を創設し、令和2年度には1人再雇用し、現在も従事している。

【事業実施における職員の育成】

・企画制作部門においては、国や県の動向、財団の中期構想や事業計画に沿った事業展開を理解し、基本的な知識の習得と現場での運営を含めた研修を業務と並行して3ヵ月間行っている。

・複数人で同一のジャンルを担当し、効率的かつ専門性を深めた人員体制を取り、事業実施に必要なノウハウや知識を高めて継承できるようにしている。

【事業実施後の取り組み】

・公演終了時に行っている来場者アンケートの内容を共有した上で担当チームが事業終了後に反省会を行い、課内会議にて報告し、良かった点や改善が必要な点について分析を行い、以降の事業に活かしている。

・県民によるモニター制度を実施し、公演事業を鑑賞して年4回開催するモニター会議にて意見を聴取している。

・年に1回、指定管理受託施設の設置者が行う外部評価委員会による評価を受けている。これらで得た意見等を集約し次期の事業計画へ反映させ、より質の高い県民ニーズに即した事業実施へと繋げている。

【その他の取り組み】

チケットの販売促進、グランシップ事業への参加促進のため、以下の内容で友の会制度を運用している。

<個人会員>年会費無料、チケット優先予約（一般発売の1週間前）、チケット購入額の5%のポイント付与等
会員数 12,477人（令和4年3月31日現在）

<法人会員>特別会員年会費 200,000円 一般会員年会費 100,000円

グランシップ企画事業への招待、法人会員の社員等チケット10%割引、公演情報の提供

特別法人会員4社、一般法人会員18社（令和4年3月31日現在）